

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	榛原郡金谷町五和小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	3	3	1	16	25
児童数	83	69	77	78	81	83	4	475	

研究の概要

1、研究主題

確かな学力の向上をめざして～学びが生きる授業づくり

2、研究内容与方法

(1)実施学年・教科

1・2年生	国語・算数・生活科
3・4・5・6年	国語・算数・総合的な学習の時間
養護学級	国語

これまでの生活科・総合的な学習の時間の研究を土台として、児童につけたい力を見直し、教科・活動の枠を広げ、総合的な学力の向上をめざした研究に取り組む。
国語、算数、生活科・総合の3つのプロジェクトにわかれて研究を進める。

(2)15年度の計画

テーマ 確かな学力の向上をめざして

学力のとらえ方

基礎学力	生涯にわたり学びの土台となる生活能力
基礎・基本の力	学習指導要領に示されている目標と内容
生きてはたらく力	発展・応用される力

研究仮説

学習環境を整えることで、発達段階に応じた基礎学力の定着が図られるだろう。
子どもにつけたい力を明確にし、指導方法や単元の展開を工夫していけば、基礎・基本の力が身に付くだろう。
各教科・総合でつけた力を関連させていけば、生きてはたらく力が身につくだろう。

研究の内容・方法（各プロジェクトでの取り組み）

国語 既習学習や生活経験を洗い出し、国語でつけたい力を明確にする。
教材の単元構想や指導方法を研究し、伝えあうことが楽しいと実感できるような授業を組織する。
漢字の読み書きの力や音読の力を確実につける学習方法を工夫する。

算数 計算力を確実につけるための具体的な方法を工夫し、基礎学力の定着を図る。
レディネステストを実施し、その結果を単元構想や個への支援などに活用する。
既習内容を明らかにし、算数的な活動を意図的に組み入れた単元構想を工夫する。
子どもの実態や学習内容に応じた少人数指導を追究し、個に応じたきめ細かな支援をする。

生活科・総合
教材の価値や魅力、子どもの思いを生かした活動を大切にする。
既習学習や生活経験を意図的に組み込んだ授業を展開する。
教科学習と総合における学習に連続性を持たせる。

16年度の計画

テーマ 学びが生きる授業づくり

研究仮説

「学びの基となる力」(今年度「基礎学力」としてとらえた力)を一つ一つ積み上げていく場を設定していけば、学力の定着が図られ、学びに生かすことができる子が育つだろう。
子どもの実態や既習学習・生活経験を洗い出した上で、子どもにつけたい力を明確にし、指導方法や単元構想を工夫していけば、「基礎・基本の力」が身につく、子どもがわかる授業が作り出せるだろう。
各教科・総合でつけたい力を相互に関連させていけば、「生きてはたらく力」が身につく、学びが生きる授業の姿が実現できるだろう。

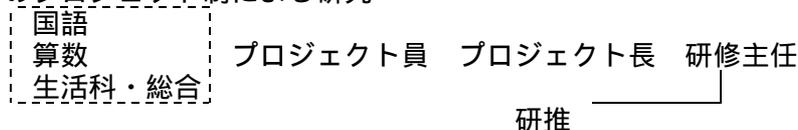
研究の内容・方法

漢字の読み書き、音読、計算等の「学びの基となる力」を確実につける学習方法を工夫し、定着を図る。
既習学習や生活経験の洗い出しや、つけたい力の明確化をした上で、指導方法や単元構

想の工夫を通して、個に応じた授業を展開し、「基礎・基本の力」を確実にする。教科学習と総合の学習でつけた力を関連させることで、既習学習や生活経験を生かし、自分から進んで学ぼうとする主体的な子を育て、「生きてはたらく力」を授業実践の具体的な子どもの姿で見いだす研究を進める。

(3) 研究推進体制

3つのプロジェクト制による研究



学年研修の枠を取り、プロジェクトで縦・横の関連を考えながら、研究を進める。小学校では学年内の連携が多く求められるので難しい面もあるが、来年度もプロジェクト制の研究を継続する。

平成15年度の研究成果および今後の課題

1 研究成果

今年度目に見える形で学力の向上を実感させたいと願って「基礎学力」の漢字・計算学習に取り組んできた。漢字指導の工夫により、小テストの点が上がってきた。定着度(本校版)テストから計算の点数は1学期と比較すると2学期の点は平均して2点上がった。(漢字は2月末に実施の予定)漢字、計算の力は「基礎学力」の一部でしかないが、あきらかに点数として子どもが実感できる点では一つ的手段として有効である。

子どもの実態や既習学習・生活経験を考え合わせながら、子どもにつけたい力を考えていくと、より個に応じた指導方法・単元構想が見えてきた。様々な試みがなされ、具体的な子どもの姿で「確かな学力」についての研究が進められた。

学力をあらゆる学習が総合的にかかわって培われる力ととらえているので、その一つのかかわりの姿として各教科と総合との関連を明記した。生活科・総合と直接関連する内容を含んでいる教科は多くはないが、総合の面から見ると、個々の学びの段階で生かされる既習学習生活経験は実に多く、多岐にわたっていることがわかってきた。

2 今後の課題

漢字、計算の力がさらに向上し定着するように、学校全体で取り組む時間を設定する。また個の傾向をつかみ、個に応じた指導ができる態勢を整える。

子どもたちが、どんな既習学習・生活経験を、学びのどの場面でどう生かすのかを、単元構想に明記していくことが求められる。また、それがどのような姿で表れるのかを評価し、個々に適した支援がなされる必要がある。「基礎・基本の力」が確実に身につく授業づくりに焦点をあてた研究を進める。

教科で学んだことが総合で生きる、総合で学んだことが教科に生きる、相互の連続性を学びの過程で考え、実践を積み重ねる。

学力等把握のための学校としての取り組み

国語 漢字の定着度テストを年2回実施、表にまとめ、実態を把握し、変化を見る。
各学年、学期末に漢字テストを実施し、長期休み中の学習プランを考えさせる。
週に1~3回10字テストを実施、漢字の練習を続ける。

算数 計算の定着度テストを年3回実施、表にまとめて、実態を把握し、変化を追う。
各学年、実態にあったミニテストを用意し、繰り返し実施。
レディネステストを有効利用する。

授業後のアンケート調査

算数で少人数指導後に子どもにアンケートをとり、思いとテストの結果をすりあわせる

学校評価の「学力向上」に関するアンケート調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年11月に研究発表会を開催する予定。午後より、公開授業、分科会を持つ。

平成15年10月29日、金谷地区の保・幼・小・中交流研修会を本校で開催した。、全学級授業を公開した。交流研修会独自のテーマがあったが、分科会にて、五和小としての学力のとらえ方を説明し、意見を寄せてもらった。

今後HPで、研究過程・成果・問題点等を公開する計画。

【新規校・継続校】

■ 15年度よりの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】

6学級以下 7~12学級 13~12学級

■ 13~18学級 19~24学級 25学級以上

【指導体制】

■ 少人数 ■ T・Tによる 一部教科担任制 その他

【研究教科】

■ 国語 社会 ■ 算数 理科 ■ 生活 音楽 図画工作
家庭 体育 ■ その他

e-mail : gokasyo@po3.across.or.jp